

建築技術性能証明書

技術名称：TG-m 工法
—先端翼付き鋼管を用いた杭状地盤補強工法—

申込者：タイガー産業株式会社 代表取締役社長 島袋 太悟
沖縄県浦添市伊祖 2 丁目 29 番 2 号

技術概要：本工法は、鋼管の先端に独自形状の螺旋状の先端翼と掘削刃を有する杭状体を回転貫入し、これを杭状地盤補強材として利用する技術である。なお、本工法による補強地盤の鉛直支持力は、基礎底面下の地盤の支持力を無視して杭状地盤補強材の支持力のみを考慮することとしている。

開発趣旨：本工法の特徴は、施工に際し周辺の地盤を乱しにくい独自形状の螺旋状の先端翼、および、施工時の補強材の推進力を高めるとともに、載荷時に支持地盤に喰い込んで支持力に寄与する独自形状の掘削刃を装備していることである。

当法人の建築技術認証・証明事業 業務規程に基づき、上記の性能証明対象技術の性能について、下記の通り証明する。なお、本証明の有効期間は、平成 30 年 3 月末日までとする。

平成 27 年 3 月 4 日

一般財団法人 日本建築総合試験所
理事長 辻 文 三



記

証明方法：申込者より提出された下記の資料および施工試験の立会確認により性能証明を行った。

資料 1：TG-m 工法 性能証明のための説明資料

資料 2：TG-m 工法 設計・製造・施工指針

資料 3：載荷試験資料

資料 1 には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した説明資料がまとめられている。

資料 2 は、本工法の設計・製造・施工指針であり、設計フロー、支持力算定式などの設計方法の他、使用材料、補強材の製造方法および品質管理方法、施工方法および施工管理方法が示されている。

資料 3 には、資料 1 で用いた個々の載荷試験結果報告書や立会施工試験報告書などが取りまとめられている。

証明内容：本技術についての性能証明の内容は、鉛直支持力のみを対象としており、以下の通りである。

申込者が提案する「TG-m 工法 設計・製造・施工指針」に従って施工された補強地盤の設計に必要な杭状地盤補強材の地盤で決まる極限支持力は、同指針に定めるスウェーデン式サウンディング試験の結果に基づく支持力算定式で適切に評価できる。

建築技術性能認証委員会委員

委員長	森野捷輔	三重大学	名誉教授
副委員長	小林克巳	福井大学大学院工学研究科	教授
〃	富永晃司	広島大学	名誉教授
委員	荒木秀夫	広島工業大学工学部建築工学科	教授
〃	伊藤淳志	関西大学環境都市工学部建築学科	教授
〃	大島昭彦	大阪市立大学大学院工学研究科	教授
〃	大野義照	大阪大学	名誉教授
〃	小野徹郎	椋山女学園大学生生活科学部生活環境デザイン学科	教授
〃	金子佳生	京都大学大学院工学研究科	教授
〃	壁谷澤寿海	東京大学地震研究所	教授
〃	河野昭彦	九州大学大学院人間環境学研究院	教授
〃	桑原進	大阪大学大学院工学研究科	准教授
〃	甲津功夫	大阪大学	名誉教授
〃	堺純一	福岡大学工学部建築学科	教授
〃	菅野俊介	広島大学	名誉教授
〃	田中哮義	京都大学	名誉教授
〃	田中剛	神戸大学大学院工学研究科	教授
〃	田中仁史	京都大学防災研究所	教授
〃	勅使川原正臣	名古屋大学大学院環境学研究科	教授
〃	中塚 侑	大阪工業大学	元教授
〃	蜷川利彦	九州大学大学院人間環境学研究院	教授
〃	榊田佳寛	宇都宮大学	名誉教授
〃	松井千秋	九州大学	名誉教授
〃	松尾雅夫	一般社団法人日本建築構造技術者協会	
〃	丸田誠	島根大学大学院総合理工学研究科	教授
〃	三谷勲	神戸大学	名誉教授
〃	宮内靖昌	大阪工業大学工学部建築学科	教授
〃	山崎雅弘	岡山理科大学工学部建築学科	教授
〃	井上一朗	(一財)日本建築総合試験所	副理事長
〃	角 彰	(一財)日本建築総合試験所 建築確認評定センター	審議役
〃	下平祐司	(一財)日本建築総合試験所 建築確認評定センター	部長
〃	永山勝	(一財)日本建築総合試験所 試験研究センター	部長
〃	安井信行	(一財)日本建築総合試験所 試験研究センター	室長
〃	長瀬正	(一財)日本建築総合試験所 建築確認評定センター	上席調査役
〃	足立将人	(一財)日本建築総合試験所 試験研究センター	室長代理

TG-m 工法

—先端翼付き鋼管を用いた杭状地盤補強工法—

評価専門委員会委員

主査	山崎雅弘	岡山理科大学工学部建築学科	教授
委員	下平祐司	(一財)日本建築総合試験所 建築確認評定センター	部長